

### 生活困窮者の就労支援、実態と問題点

#### NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

2025年10月7日の読売新聞の山梨版に、「生活困窮者から就労支援」というタイトルで、「障害や病気を抱えているために思うように働くことができず、生活保護を受給したり生活に困窮したりしている県民を支援しようとする来年度の計画について」と、「県内の生活保護受給者が約7,000人以上に上り、このうち1,000人以上が障害や病気を抱えていると推計される。」という記事が掲載されました。この記事を担当している記者さんから、やまなしライフサポートが生活困窮者の自立支援に取り組んでいるので、取材をしたいという電話がありました。県の計画とは異なりますが、私たちが今取り組んでいる活動について説明しました。

やまなしライフサポートは甲府市、笛吹市、山梨市、都留市からの委託を受けて、生活困窮者自立支援法の一時生活支援として、緊急一時宿泊施設ライフ荘を利用しながら、職を失いホームレス状態になった方の就労支援、生活保護受給や年金受給のための支援をしています。滞在期間の上限は2週間ですが事情によっては延長も可能です。3度の食事のほかに必要な方には下着や面接に必要な衣服なども提供します。完備された個室でゆっくりと休養してもらいながら、就労に必要な面接の準備や履歴書の書き方の指導を受けることができます。生活保護や年金受給に必要な事務的な準備もスタッフと時間をかけて行います。この間、看護師による健康チェックや必要な場合は病院同行支援も委託されております。

2024年度1年間のライフ荘利用者数は33名、平均年齢46.4歳、就労支援21名(64%)、生保受給支援10名(30%)、平均宿泊日数11.3泊。滞在中に健康上の問題で相談や通院のお世話をした方11名(33%)。2025年度

上半期の利用者18名、平均年齢44.2歳、平均宿泊日数15.5泊。就労支援5名(28%)、生保受給支援12名(67%)、健康上の問題で相談や通院のお世話した方8名(44%)。

利用者の平均年齢から推測できることは、彼らのほとんどがバブル崩壊後の日本経済の低迷、就職氷河期という不況の中で苦しんできているということです。30年に及ぶ生きづらい時代、夢や希望を抱けない暗いトンネルの中で苦しみさ迷っている若者たちの姿を見る思いがします。

健康上の問題も以前は高血圧、高血糖、腰痛等身体的なものが大半を占めていましたが、上記の1年半に健康問題で苦しんでいると訴えた方のほぼ全員が適応障害やうつ病などの精神疾患を患っていました。現在も治療を受けている方や通院歴がある方のご苦勞を知り驚きました。通院に時間がかかったり、医師からの忠告があったりして就労を断念し、生活保護申請へと支援を変更した事例も多くなりました。

取材を終えた記者さんは、「転職を繰り返した末、生活保護の受給に至った事例から、中山理事長は『病気を治しながら、柔軟に働ける社会づくりが必要だ』と力を込める。」と取材をまとめた形で記事を終えています。社会全体で若者たちに希望と夢を与えられるような未来を目指していきたいと思います。

ライフ荘を利用してから、生活保護や年金受給を受け一人暮らしを始めた方には、アフターケアとして訪問相談支援を実施しております。希望によって、定期的にスタッフや看護師が訪問し、福祉事務所や年金事務所、法テラス等への車での同行支援もしております。

### 2025年度前半の主な活動実績

2025年4月～2025年9月 人数は延べ数

食料配布、炊出し	1,548名(26回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	310泊(26名)
健康相談	1,415名(61回)	生活保護申請同行	8名(受給実績10名)
生活保護・年金受給者面談	188名(99回)	就労相談	32名(就労実績6名)

# 特集 猛暑の低所得者層への影響

## 低所得者層への猛暑の影響を調査

記録的な猛暑が続いた2025年夏。低年金や生活保護で暮らす人々への影響を調べると共に、今後どのような対策が必要とされるかを検討するためにアンケート調査を行いました。

2025年9月。当法人が実施する炊出しや食料配布の利用者に対して職員が面接で、また、食料配布に来ることのできない方には訪問してアンケートを取得しました。回収数は103件でした。

## 回答者の属性

年代別では60代が37名(36%)で最も多く、70代25名(24%)、50代20名(19%)と続きます。性別では男性が85%でした。持病の有無を尋ねたところ、持病なしと答えた方が46%でした。一方、高血圧の方が28%、糖尿病の方が11%おられました。

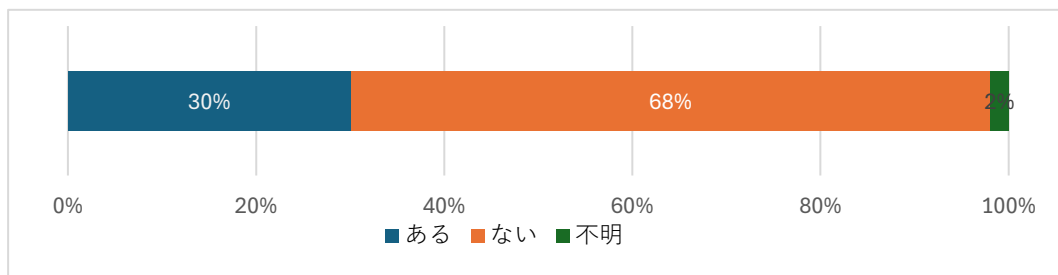
収入については、以前の調査から、生活保護受給と年金(国民年金や障害年金)の方が大半を占めていることが判明しています。

## アンケートの結果

質問1. ここ1～2年の暑さで体調を崩したことがありますか？

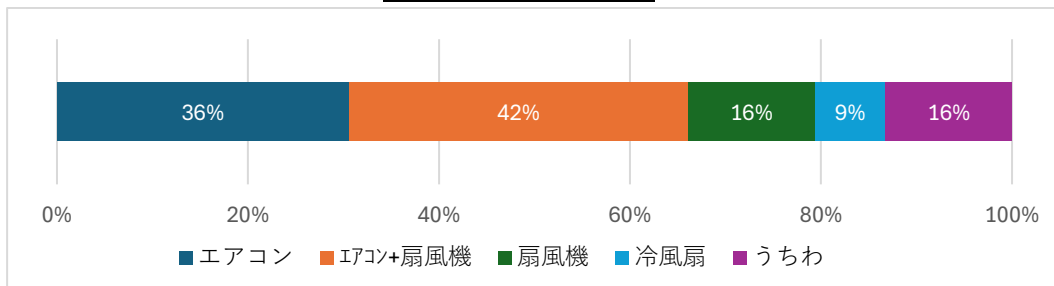
3割の方が体調を崩したと答えた。

暑さによって体温が急激に上がると、通常は皮膚の血管が広がり体温を広げようとするが、高血圧の方の血管は柔軟性が低下しているため、体内の熱を外に逃がすことが難しく熱中症になる危険性が高い。



質問2. 暑さをしのぐために自宅で使っているものは何ですか？

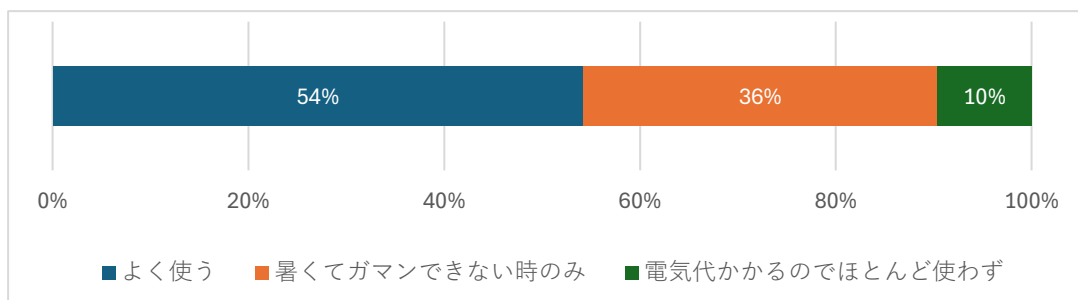
エアコンを使っている方は78%だが、扇風機のみの方も16%いた。



質問3. (エアコン所有者に)エアコンの使用状況は？

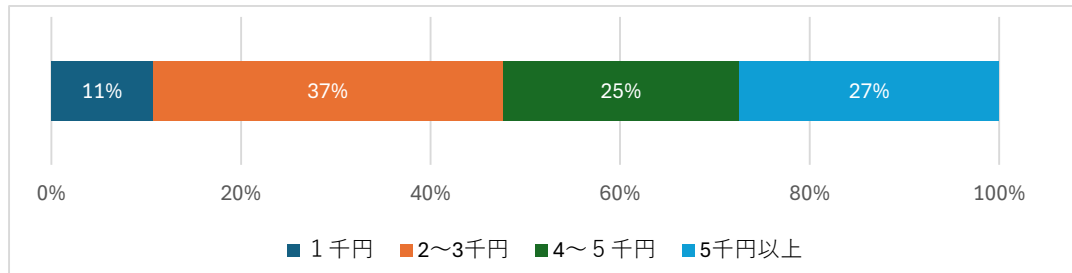
よく使っている方は54%。電気代が気になり使用を控えている方が46%いた。

エアコンがあるが壊れていたり、電気契約がなくて使えない方も複数人いた。



質問4. エアコンを使うと、電気代が1ヶ月当たりどのくらい増えると思いますか？

2～3,000 円増えると感じた方が最多だったが、5,000 円以上という方も多かった。

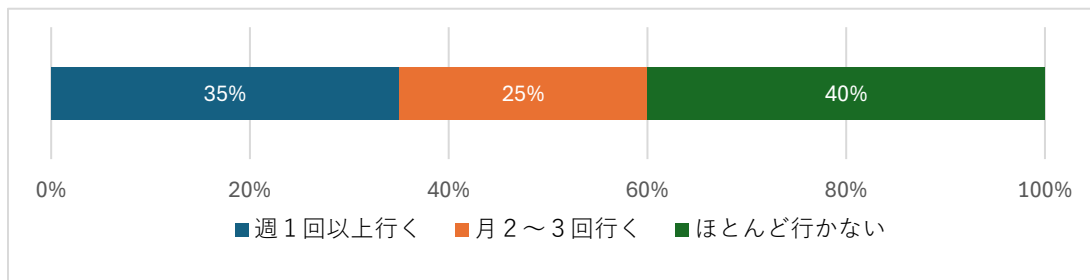


質問5. 暑さをしのぐために涼しい所に行くことがありますか？

暑さしのぎに週1回以上頻繁に行く方は35%で、ほとんど行かない方も多かった。

行先としては、スーパーが最多で、市民センター、市役所、郵便局、薬局等が続いた。公園や河川敷に行く方も複数いた。

クーリングシェルターについて知っている方は45%だった。



## お話を聞いてみました

### 電気代がとても気になります

Yさん(70代男性)

この夏とても暑かったが、できるだけエアコンを使わないようにして扇風機で我慢していました。夏場の電気料金が13,000 円になったことがあり、このような金額になってしまうと生活保護費ではとてもまかなえません。

それだけでなく物価高が進んで食費にまわせる金額がだいぶ減っています。やはり食べることが基本なので、食べていくためには光熱費を減らすしかありません。エアコンを使う時も除湿にして短時間の使用にとどめています。

10月になってやっとホッとしています、6月から9月はとても大変な思いをして過ごしていました。

### 冷風扇でしのいでいます Hさん(80代女性)

4年前から生活保護で一戸建て借家に住み始めました。当初はエアコンが使えましたがその後故障。大家さんに交渉しましたが、前の住人が設置した物という理由で交換してもらえませんでした。

市の福祉課に相談したところ、エアコン本体は提供できるが設置費用は自己負担で、と言われました。3万円の設置費用を生活保護から捻出するのは無理なのでエアコンは諦めました。

しかし、昨年から続く猛暑には扇風機だけでは耐えられません。また、自宅近くには図書館やスーパーなど涼める場所也没有。ちょうどテレビショッピングで冷風扇(本体に入れた水の気化熱で涼しくするもの)を8,000 円位で売っていたので購入してみました。エアコンには及びませんが扇風機よりは涼しいので、つけっぱなしにして涼んでいます。



## やまなしライフサポートの取組み

アンケートの集計結果を次の4点にまとめました。

- ① 猛暑により30%の方が体調を崩していた。
- ② 生活困窮者の高齢者の28%に、熱中症に罹りやすい高血圧の方がいる。
- ③ エアコンを使用している方は78%いるが、その内36%は電気代を気にして使用を控える傾向にある。
- ④ クーリングシェルターの認知度は45%である。

これらの結果をもとに、電気代を心配せずにエアコンを利用できるよう、生活保護世帯への夏季加算を国に対して求めていくために、甲府市議会として意見書を提出していただくよう議員と連携して進めているところです。

(現在は冬季加算として暖房代の補助名目で月額4,000 円程度が支給されています)

## 寄付金でお米を購入しました

やまなしライフサポートでは炊出しや、食料配布活動で毎月約120kgのお米を使用しています。従来は個人や農家からご寄付いただいたお米や、フードバンク山梨様からの支援米を活用してきましたが、昨年からのお米の価格高騰の影響で不足するようになってきました。

そのような中、今年度は甲府食事サービスを進める会様や三菱 UFJ 銀行様より多額のご寄付をいただき、十分な量を確保できるようになりました。

甲府食事サービスを進める会様には、大型炊飯器をお持ちだったため、炊出し開始間もなくから毎週9kgの炊飯のご協力をいただいていた。残念ながら本年3月に解散されましたが、残余財産の一部をやまなしライフサポートにご寄付いただきました。



寄付金で購入したお米

## 炊出しボランティアさん募集中

炊出しのボランティアを募集しています。調理、配食、片付けをお願いしています。毎月第1木曜日、14時から17時。ご都合の良い一部時間帯でも結構です。

マスク、三角巾、エプロンをご用意いただき、13時50分にご集合をお願いします。

場所: 甲府市中央2丁目7-10 カトリック甲府教会(駐車場あり)

## 物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら甲府市周辺であれば当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いします。

(家電製品は製造後10年以内の物をお願いします)

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、  
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、  
電気ポット、自転車、カーテン、布団

## 寄付金も募っています

貴い寄付金が食料や衣類となって困窮されている人を支えます。

お振込みの前に、電話かメールでその旨お伝えいただけると幸いです。

振込先

山梨中央銀行 南支店 普通預金 865629

名義人 特定非営利活動法人やまなしライフサポート 理事 中山八十司  
(トクヒヤマナシライフサポート)

## 会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加してくださる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援してくださる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<https://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。